

会誌「船長」目次録 ③

H 26 年 3 月(第 131 号)～ H 31 年 3 月(第 136 号)

第 131 号(平成 26 年 5 月号)

特集「船舶の津波対策」

- ・地震津波来襲時の大型船の係留限界について
榊原 繁樹
- ・岸壁に係留された船舶の津波被害の防災・
減災対策について 増田 光弘
- ・津波を受ける船舶の挙動解析と対策について
小林 英一
- ・緊急時の自力離棧操船に関するシミュレータ
実験 矢吹 英雄・岡崎 忠胤
- ・伊勢湾における津波来襲時の LNG 船緊急
離棧方法について 谷田 厚志
- ・東京湾における LNG 船の緊急離棧実船訓練
について 高橋 幸一
- ・船舶の津波対策シンポジウムにおける
航海学会としての提言 中村 紳也
- 船舶衝突事件における法的判断の相違
松本 宏之
- ソマリア海賊への各国・機関の対応状況と
民間武装警備員乗船制度 森本清二郎
- 水先問題の在るべき規制への手掛かりを求めて
郷原 資亮

第 132 号(平成 27 年 3 月号)

- 避航における新しい行動評価指標 今津 隼馬
- 海上衝突予防法(1972 年国際海上衝突予防規則)
の避航規程に違反する VHF 合意の妥当性
和田 啓史
- 海洋安全保障体制の確立と海上安全運送の確保
羽原 敬二
- ブルガリア・クロアチア・ルーマニアの
船員教育・海技資格制度 野村 摂雄

第 133 号(平成 28 年 3 月号)

特集：海難時の船長を巡る法的責任について

- ・船員の犯罪者扱いと国際船員人権センター
赤塚 宏一
- ・過失事故と刑事罰
—航空運航システム研究会」の活動から
見えてきたもの— 池田 良彦
- ・過失の処罰は必要か
—人間科学の知見より見た過失犯処罰の
妥当性— 逸見 真
- ・海難審判と裁決の活用に向けて 山田豊三郎

(巻末資料)

海難発生時における船員の公正な扱いに
関する IMO ガイドライン
日本船長協会の会誌等に掲載済みの関連
記事一覧

第 134 号(平成 29 年 3 月号)

- 船長の為の国際法 赤塚 宏一
- 避航は真運動で 今津 隼馬
- “操舵室の自動化”の教訓とシステム
安全性確保の動向 佐竹 伸正
- BRM 実践の本質
—船橋チーム員相互の信頼、意思の
疎通と法的責任— 逸見 真
- 水先制度改革の課題と嚮導リスクへの対応
羽原 敬二

第 135 号(平成 30 年 3 月号)

- 非損傷時復元性基準の改正動向について
小磯 康
- 船舶の避難場所問題への対応 山地 哲也

船員の公正な扱いに関する国際ワークショップ

赤塚 宏一

「Global Marine Technology Trends 2030」

による 2030 年の海事分野 庄司 るり

COLREGS 第 15 条成立経過とその意義 岸本 宗久

19 世紀のマラッカ海峡 種市 雅彦

第 136 号(平成 31 年 3 月号)

IWRAP (IALA Waterways Risk Assessment

Program) について 北澤 文香

水先人の重過失と免責阻却 逸見 真

GHG 排出削減と脱炭素化に向けた対応について

森本清二郎

坂本 尚繁

航海灯の射光範囲について 岸本 宗久

航海計器の利便性に関する調査 長谷川恭通

森 勇介

巢籠 大司

吉本 誠義

狭い水道での漁ろう船の動力船に対する

「通行妨害禁止義務」と動力船の漁ろう船

に対する「避航義務」について 和田 啓史